

令和 8 年度 学力向上全体計画

学校名	墨田区立八広小学校
校長名	近藤 幸弘

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・全学年・全教科、全 34 観点の平均正答率が全国平均を上回った。【第 1 目標】 ・全国平均 5 ポイント以上を上回ったのが全 34 観点中 25 観点、10 ポイント以上が 10 観点であった。(昨年度よりも向上) ・全教科は全学年で「思考・判断・表現」はほぼ 5 ポイントないしは 10 ポイント全国平均を上回った。 ・第 6 学年の社会及び理科については全観点で全国平均を上回った。	・全学年・全教科、全 34 観点中の 14 観点が区の平均正答率を下回った。【第 2 目標】 ・全国平均で昨年度と比べて、少し下げたのが、算数、理科及び英語の「知識・技能」である。 ・第 4 学年以上の算数で全国平均同程度が 4 観点ある。 ・(算数による全体的な底上げができれば区の平均正答率よりもさらに向上する。)

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・学習意欲については 3 年生～6 年生は全国平均を上回っている。 ・5、6 年生はテストで間違えたところはやり直すという肯定的な意見が 7 割以上である。 ・5、6 年生は話し合い活動では自分の意見が言えるという肯定的な意見が 6 割以上である。 ・5 年生は将来の夢がある回答が 9 割である。	・学校以外での学習習慣は全国平均よりも下回っている。 ・4、6 年生は授業以外でほとんどしない回答が 3 割を超えている。 ・4 年生以上の読書の時間が全国平均を下回っている。全く読まない回答で、4、5 年生で 3 割程度、6 年生で 6 割である。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・単元のテスト及びプリント課題等、指示に従ってきちんとできる。 ・学習・生活規律が身に付いている児童が多い。 ・ふりかえり期間の学習について一生懸命に取り組める児童が多い。	【算数科 東京ベーシックドリル診断シートの結果】 ○平均正答率 (R7. 5 月→R8. 5 月との比較) ・3 年…57.6%→48.9% (－8.7%) ・4 年…63.9%→62.2% (－1.7%) ・5 年…59.9%→55.7% (－4.2%) ・6 年…45.4%→34.8% (－10.6%)

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 年間を通した学力向上の取組 ～基礎・基本の定着に向け、取組の徹底を図る～

年間を通して、学力向上委員会を中心に学年を単位として計画的・組織的・継続的に取り組み、全学級で徹底することで各教科において基礎・基本の学習内容の確実な定着を図る。

時期	主 な 取 組				
4 月	学力向上ふりかえり期間④【直前対策②】 ※学力引き継ぎ（学年間分析結果の引き継ぎ） ※区学力調査過去問題・類似問題の取組 ※家庭学習取組強化週間① 区学力調査・全国学力調査の実施				
5 月	調査実施後の振り返り				
7 月・8 月	区学力調査結果分析・考察・実施計画作成 夏休み補習教室①・② ※学力調査結果の引き継ぎ（学年間共有）				
9 月～ 10 月	学力向上ふりかえり期間①【第 1 期】 ※家庭学習取組強化週間②				
12 月	冬休み前ふりかえり期間 （「身に付けるべき学習内容」の定着度の確認） 後期学力テストの実施（12 月中）				
1 月 ～ 2 月	学力向上ふりかえり期間②【学年末重点】 ※家庭学習取組強化週間③				
2 月 ～ 3 月	学力向上ふりかえり期間③【直前対策①】 ※区学力調査過去問題・類似問題の取組 ※後期学力テスト結果分析及び取組 （間違えたところ、課題のあった単元は必ず復習し、習熟を図る。）				

① 学習ふりかえり期間（基礎・基本の確実な定着を図る重点期間）

- ・学習内容を確実に定着させるため、授業で「ふりかえりシート」等の主に「知識・技能」「思考・判断・表現」を定着させる学習教材を活用して定着を図る。併せて学年や単元の内容に応じて漢字・計算ドリルや学習アプリ、「問題データベース」などの練習問題等で習熟を図る。
- ・当該の一つ下の学年に本年度の学力調査の課題を伝える機会（学年間共有）をもち、共有する。日頃の授業で重点事項として指導するとともに、「学習ふりかえり期間」でも重点的に取り組む。
- ・学力テスト対策プリントを作成し、ふりかえり期間に実施する。

② 学力向上委員会を中心に、学年を単位とした組織的な取組の徹底・継続

- ・授業（45分）、朝学習（15分）等の各教科の時間の大切に、「学力向上プラン」をもとに、学年を単位として全学年・全学級で取組の徹底・継続を図る。
- ・学年の取組については学力向上委員会が進ちょく・管理を行う。「ベーシックドリル診断シート」等は学年の実態に合わせて実施し、学力向上委員会が状況の把握、結果分析等を計画的に行う。

③ 放課後（夏季）補充教室・大学生チーム派遣事業による指導

- ・主にC・D層の児童を対象に放課後（夏季）補充教室・大学生チーム派遣事業を活用し、外部指導員による補充学習を行う。少人数での指導を行うことにより基礎・基本の学習内容の定着を図る。

④ 後期学力調査の実施（学力向上の取組の効果検証）

- ・年度内の子供たちの学習の定着度及び各学年における取組の成果と課題を把握するため、12月に学力向上マネジメント校として後期学力調査を全学年で実施し、取組の効果検証を行う。

⑤ 校内学力向上ヒアリングの実施

- ・管理職及び学力向上委員長等と学年で、「学力向上ふりかえり期間」等の前に、学年ごとに校内学力ヒアリングを行う。学力向上プランや学力調査の結果をもとに、課題や取組内容、進ちょく状況を共有したり確認したりする。

⑥ 計画的な家庭学習（宿題）の実施

- ・基礎・基本の定着のため、計画的に家庭学習を行う。音読（毎日）、漢字・計算ドリル、週末の日記、「ふりかえりシート」等を学年の実態に応じて宿題として出す。授業や朝学習の時に答え合わせし、見直しをする（間違えたままにしない）。
- ・「家庭学習取組強化週間」を年3回設定し、保護者と連携して家庭学習の習慣を身に付けさせる。
- ・3年生以上は週に1回以上は社会科か理科の宿題を出すようにする。

⑦ 社会・理科の取組

- ・朝学習や家庭学習でも習熟の機会を設けて計画的に取り組む。
- ・社会では、問題解決型の授業を行い「知識・技能」「思考・判断・表現」を定着させる。用語（キーワード）を板書して指導し学習の振り返りで定着させる。授業や朝学習で、確認テストや自作プリント等を用いて、必ず覚えなければならない用語（キーワード）は確実に覚えさせる。
- ・理科では実験・観察をスモールスケールで行い、一人一人が操作できるようにし、主体的に取り組ませる。また、單元ごとに、クイズアプリ（カフト）を活用し学習内容を定着させる。正答率の低い問題はその場で解説・確認を行い、最後は確認テスト（紙教材）で習熟を図る。社会科同様、必ず覚えなければならない用語（キーワード）は確実に覚えさせる。

⑧ 朝学習「さわやかタイム」と朝読書の取組

- ・週3回実施される「さわやかタイム」について、学年ごとに計画を立て確実に実施する。

火…国語（漢字、読解、書くこと） 水…算数（計算） 金…朝読書

※3年生以上は社会科・理科についても計画的に取り組む。また、高学年については「YOMUYOMU ワークシート」に取り組む。

(2) 学力を定着及び向上させるための授業改善 ～学習内容の確実な定着に向けて～

① 問題解決学習への転換

- ・授業では、問題解決型の学習や体験学習を取り入れる。児童が自ら課題を設定し、課題解決を通して自ら考え判断し、表現できる能力を育成する。

- 0 復習（既習事項の確認）
- 1 課題提示（学習課題を立てる。めあてを提示する）
- 2 解決の見通しをもたせる
- 3 自力解決（自分で考える）
- 4 発表・検討（友達と考える）
- 5 まとめる（学習の振り返り）
- 6 適用問題（学習アプリ、練習問題で定着を図る）

- ・各教科の学習において、自分で考えたことを発表し、話し合う機会を設定する。各教室に話型を掲示し、自分の考えを発表したり話し合ったりできるようにする。グループ学習や対話型学習を取り入れ、友達の良さ考えを認め合い、協同して学ぶ意識をもたせながら学習を進めていく。
- ・一人1台端末（ロイロノートスクール）を活用し、子供たち同士の情報の共有や話し合いを効果的に行い、主に「学習意欲」及び「思考・判断・表現」を育成する。
- ・授業では「書くこと」に重点を置き、自分の考えや感想を文章に表す機会を設ける。また、学習の振り返り（復習）ができるようノートやワークシート書き取りを重視し、書き方を継続的に指導する。

② 個に応じた指導の充実

- ・算数では、3年生以上で習熟度別指導を実施する。低・中学年には少人数指導や個別指導を通して個に応じた指導の充実を図り、「ふりかえりシート」等を活用し基礎学力の充実を目指す。実施後は必ず答え合わせや見直しを行い、間違えたままにしない。

③ 各教科で「各学年の終了までに必ず身に付けさせたいこと」を確実に身に付けさせる

- ・各教科で確実に身に付けさせる内容を決め、授業等で指導し、全児童に確実に身に付けさせる。

1年	10の合成、繰り上がり繰り下がりのあるたし算・ひき算	2年	かけ算九九、時刻と時間
3年	2けたをかける計算、わり算、ローマ字	4年	2けたのわり算、47都道府県
5年	小数のかけ算・わり算、分数のたし算・ひき算	6年	分数のかけ算・わり算
※単位についても各学年で身に付けさせる(2年長さ・水のかさ、3年重さ、4年面積、5年体積)			

(3) ICT機器の活用し、基礎基本の定着を図る取組

① 興味・関心をもたせる授業を展開する。

- ・問題解決型の授業をより効果的に行うために、一人1台端末や大型モニターを活用する。ロイロノートスクールなどのソフトウェアを使って分かりやすく動画や資料などを提示したり、話し合い活動を充実させたりし、児童の興味・関心を高める授業を行う。

② 一人1台端末を活用し、基礎基本の定着及び家庭学習の強化を図る。

- ・一人1台端末を活用し、学習アプリ（カフート）や「ミライシード」などのドリル系の学習を授業や家庭学習に取り入れ計画的に繰り返し行う。最後は確認テスト等の紙教材を用いて習熟を図る。

3 「令和9年度 墨田区学習状況調査」における目標（目的）

【第1の目標】

- ・全学年・全教科の観点別の平均正答率について全国平均以上を維持する。(すべての学年で国語科・社会科・算数科・理科・英語科の観点別の平均正答率で全国平均以上を維持する。)

【第2の目標】

- ・全学年で全教科の観点別経年比較で、正答率が向上もしくは同等以上の結果を得る。
- ・DE層の減少、特に学年の低い児童を重点に解消する。